

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	【ビクトリアス市の救急車両及び救援・救助用機材が補填され、同市災害対策管理局の救急搬送、一次処置能力及び避難・救援・救助体制が改善される】 本事業では、救急車、緊急支援用車両、救助用機材の寄贈に加え、島尻消防組合の現職救急職員による技術移転が行われることで、ビクトリアス市の救急設備の充実及び消防職員の一次処置能力及び避難・救助・救援体制の向上を目指した。 本事業により、救急車1台、緊急支援用車両1台、救助用機材が寄贈され、災害医療における救急搬送や一次処置体制が強化された。さらに、島尻消防職員によって技術移転研修が行われたことで、同局職員の能力が向上し、車両の整備や救助用機材を用いての救助知識や技術の改善に寄与したことから、プロジェクト目標である「ビクトリアス市の救急車両及び救援・救助用機材が補填され、同市災害対策管理局の救急搬送、一次処置能力及び避難・救助・救助体制が改善される」に貢献した
(2) 事業内容	本事業は、救急車、緊急支援用車両及び救助用機材の供与と技術の共有を目標とし、活動内容は申請時の計画通り実施できた。具体的な内容は以下のとおりである。 (ア) 救急車、緊急用車両の輸送 車両の輸送においては、在沖縄フィリピン総領事館や輸送事業者等との国内における手続き業務や各種許可書の取得の他、フィリピン国内での輸入許可申請手続きを同時に進める必要があり、カウンターパートであるビクトリアス市との綿密な連携を図り業務調整を進めた。また、ハンドル切り替え等の整備後、ビクトリアス市の災害対策管理局職員がスービック港まで出向き自走を行う等、迅速かつ確実な輸送に努めた。 (イ) 島尻清掃消防組合の消防局員による技術移転 上記(ア)の輸送手続きにおいて、ビクトリアス市との連携による円滑な輸送手続きに努め、2019年4月9日に技術移転研修、4月10日に寄贈式を開催することができた。式典には、ビクトリアス市パランカ市長、南城市瑞慶覧市長、弊法人理事長安和、在比日本大使館一木二等書記官、津波古島尻消防長が参列し、両国の国歌斉唱、救急車及び救助用機材を使用したデモンストレーション等、多くの市民の目前で終始和やかな雰囲気で行進された。また、「救急車両及び救助用機材を寄贈していただき心より感謝している。大切に活用し、ビクトリアス市民を守っていきたい」というパランカ市長の言葉に、日本側参加者も一同感慨深い様子であり、両市の友好関係のさらなる深化にも貢献した。この式典は、現地の新聞社だけでなく、沖縄タイムス、琉球新報にも掲載された(掲載日:2019年4月10日(水)、2019年4月17日(水)、2019年5月10日(金))。

(3) 達成された成果	成果 1:救急車両及び救援・救助用機材の保有台数が増え、特に山間部の緊急搬送及び救援・救助体制が強化される。 指標 1:救急車1台、緊急支援用車両(ハイラックス)1台、救助用機材(レスキューツール)1式が贈与され、特に山間部における救急搬送及び救援物資輸送等の出動件数が寄贈前と比較し増加する。 本事業により、救急車1台、緊急支援用車両1台、救助用機材1式が寄贈されたことで、ビクトリアス市で保有する救急車両が4台から6台に増加した。救助用機材1式(油圧カッター、油圧スプレッダー、油圧エンジンポンプ、油圧ラムシリンダー等)により、緊急救助体制が強化された。 4月及び5月は、市内から離れた山間部における水難事故等が多いことから、緊急時に備えて山間部であるガワホンエコパークに救急車を配置した。これまで対応できなかった山間部地域の出動件数は、4月に5件、5月に10件の出動があり、計9名を搬送している。 また、5月上旬に山間部で発生した車両事故では、3名のケガ人を救助用機材を用いて救助し、人命救助に活用することができた。 市民からの評価も高く、山間部における救急搬送及び救援物資輸送等の出動件数が寄贈前と比較し増加していることから、事業目標は達成された。 成果 2:車両の整備・メンテナンスの他、救助用機材の使用方法、応急手当等、知識や技術が改善される。 指標 2:車両及び救助用機材が適切に管理され、救急医療の一次処置や災害救助等の対応件数が寄贈前と比較し増加する。 島尻組合職員による技術移転講習会を行い、ビクトリアス市の災害対策管理局職員(Disaster risk deduction and management Office)が参加した。寄贈車両及び救助用機材の使用方法、応急処置方等の知識や技術が伝えられた。参加した職員からは「救助用機材の訓練を継続して行い、多くのビクトリアス市民の救助に活用したい」という意見があり、充実した救助体制に向けて前進した。 さらに、フィリピンは自然災害の多い国の一つであり、特に台風や洪水による災害リスクが高いことから、災害医療における緊急搬送や一次処置体制の強化に貢献しており、これは「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標13における「13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する」にも適合する事業であった。
(4) 持続発展性	<先行事業による実績> 2016年にNGO連携無償資金協力事業による消防車供与事業(以下、先行事業)が実施され、事業完了直後に平均月3度の出動・消火、市民への防災訓練、早魃地域の住民やサトウキビ畑への給水活動等が行われる等、ビクトリアス市において最大限効果的に活用されており、市民からの評価も高いことが報告されている。また、錆に対して板金を施し塗装するなど供与車両を非常に丁寧に扱い維持管理を継続的にやっている。 <災害対策管理局職員の意欲及び能力向上> ビクトリアス市災害対策管理局では、予防・活動・回復のサイクルで業務を遂行しており、定期的に人命救助、消火活動、交通事故対応、救急対応、避難訓練、応急処置訓練、水難事故訓練、山間部の防災調査等を行い、職員の人材育成に努めていることから、提供した救急車は引き続きビクトリアス市で活用される。

	また、本事業においてビクトリアス市災害対策管理局職員に対し、救急車の運転・操作方法や機材等の維持管理の注意事項等について説明・アドバイスを行った。更には、緊急搬送等に関する質疑応答等を行い、職員の知識向上を図っており、持続発展性の確保が期待できる。 ＜現地の市政方針との合致＞ ビクトリアス市が制定する施政方針「ASENSO」には、社会と保健医療サービスの充実が含まれており、平和・安全なまちづくりと防災に取り組んでいる。このことから救急車、救援用車両及び救助用機材の供与は市の政策に貢献するものであり、同市の先導のもと、適切な活用と維持管理が行われると見込んでいる。 ＜MOU の締結＞ 本事業で寄贈された消防車両がビクトリアス市の保守管理のもと長期的に活用されることが、ビクトリアス市、レキオウイングス及び南城市（witness）の３者による MOU の署名をもって締結された。なお、救急車が到着後、ハンドル、バッテリーを替え、更には錆を取り、きれいな状態にしていた。緊急支援用車両同様に、きれいに塗りなおされ、すぐに使用できる状態にされていた。ビクトリアス市パランカ市長同市パランカ市長の指示のもと、整備体制が築かれていることを確認した。
--	---